

タイ湾におけるマングローブ調査（タイ）

日程：2013年5月26日～6月1日

鈴木

佐々木教授, Dr. Thamnoon

上記の日程で、タイ湾奥部での観測に向け、マングローブ林の踏査を実施したとともに、航空写真に関する情報収集を行った。



初日は、Dr. Anurak との打ち合わせを行うため、チュラロンコン大学に向かった。バンコク市内にある。



打ち合わせの前に、大学の食堂(?)にてランチ。雰囲気は日本の学食に似ている。



Dr. Anurak との打ち合わせ。これまでのチュラロンコン大学の研究内容、沿岸域の研究状況などについて議論を行った。また、現地データ収集方法についても情報提供頂いた。



チュラロンコン大学の実験施設見学。砂を用いた実験では、0.1mm 程度の細かい砂を用いているとのことであった。



打ち合わせ後，高架鉄道 BTS で移動.



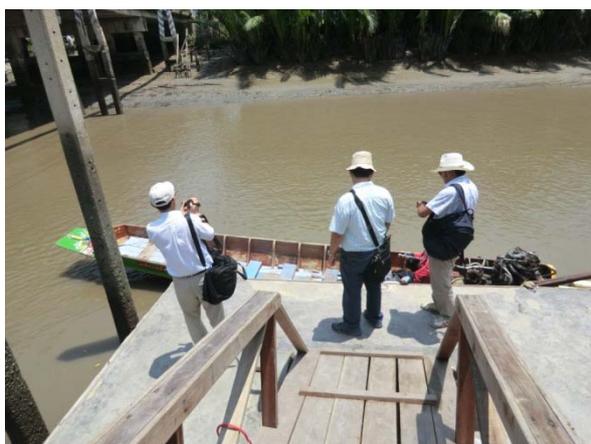
この辺りは，このような運河があり，これが道となっており住民はボートを使って移動する。左に見える電柱には街灯も付いている。



昼食は，道端にあるレストランへ。地元の方々が集まるお店であった。



調査地点の最寄りまでボートから降りる。このように地図も作られている。



これより先は道がないため，ボートで調査地点に移動する。



海岸線に向かい歩く。両側はエビの養殖場となっている。



寺院近くにある



海岸線まで移動。ここがエビ田と外洋をつなぐゲート。



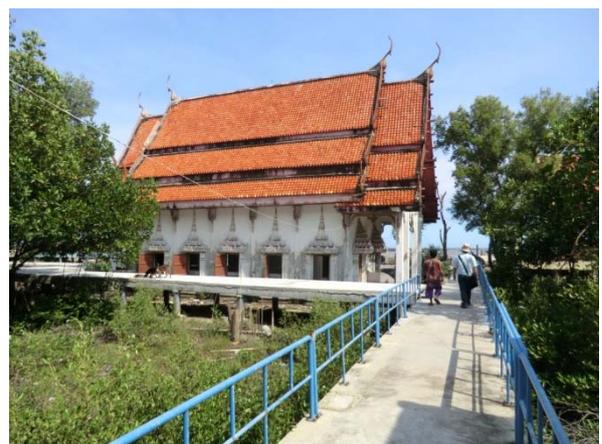
この周囲一帯の侵食状況，マングローブ回復事業等についての話を聞く。



寺院に向かう。この時間，干潮であったため汀線位置ははるか沖にある。周囲は干潟。



侵食が進んだことにより，数百年前に使用されていた硬貨，食器等が発掘され，ここで展示されていた。



寺院。周囲はやや地盤が高いため木々が生えている。ただし，この建物そのものも 1.5m 程度沈下したとのこと。



寺院海側の様子。周辺住民が設置したコンクリート杭が並ぶ。やはり見た目は美しくない。



こちらはコンクリートパイル。



海軍の敷地外部にはこのようにコンクリートパイルに古タイヤを入れ込んだものが使用されていた。



昼食は海軍敷地内のレストラン



航空地図の購入



場所を選定して、注文を行う。
今後、このプロジェクト続きます。